



Mine秋吉台ジオパーク

ユネスコ世界 ジオパーク 認定

2026年4月23日 正式認定

4月23日、フランス・ユネスコ本部で開催された会議において、Mine秋吉台ジオパークが、正式に「ユネスコ世界ジオパーク」として認定されました。

この認定は、Mine秋吉台ジオパークが有する「白」の石灰岩、「黒」の石炭、「赤」の銅といった貴重な地質地形遺産をはじめ、自然遺産、有形文化遺産、無形文化遺産が、学びや交流を通して地域活動に活かされていることが高く評価された結果であります。すなわち、Mine秋吉台ジオパークには国際的価値のある地質地形遺産が存在し、それを地域全体で保全・活用していることが、世界に認められたといえます。

この成果は、地域の皆さん、ジオガイド、関係機関の皆さんなど多くの方々が力を合わせて活動を続けてこられた努力の結晶にほかなりません。心より感謝申し上げます。

しかし、ユネスコ世界ジオパーク認定はゴールではなく、次なる挑戦への出発点です。私たちは、貴重な地質地形遺産、自然遺産、有形文化遺産、無形文化遺産を守りながら、次世代を担う子どもたちが世界とつながり、地域に誇りを持ち、未来を創り出していける環境を育ててまいります。

Mine秋吉台ジオパークは、これからも「地球に寄り添い、人とつながり、未来のあり方を考え行動する社会」の実現を目指し活動を続けていく所存でございます。どうか今後とも、地域一丸となって歩みを進める私たちへのご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。
(Mine秋吉台ジオパーク推進協議会 会長 篠田 洋司)



Mine秋吉台ジオパークのこれまでのあゆみ



事務局員紹介

事務局長 中村 義輝



Mine秋吉台ジオパーク推進協議会事務局の中村と申します。当協議会は、ユネスコ世界ジオパークへの認定という大きな節目を迎え、新たな挑戦のステージに立っています。この認定はゴールではなく、貴重な地質地形・自然・文化遺産を、次世代へ持続可能な形でつないでいくための「新たな出発点」とであると深く心に刻んでおります。地域の皆様や関係者の皆様と連携を深めながら、ジオパークの価値を最大限に高め、さらなる地域活性化に寄与できるよう、誠心誠意努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパーク被災に係る募金の報告について

台風「プロアイ」が2025年9月29日にベトナム沿岸部（Mine秋吉台ジオパークと連携協定を締結しているドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパークが活動エリアとするトゥエンクアン省を含む）に上陸し、大規模な災害に見舞われました。ドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパークへの災害募金活動に対し、多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただいた募金総額は、2,473,900 VNDとなりました。

お預かりした義援金は、全額、ドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパークの復旧・復興活動および被災者支援のために役立てられます。皆様の温かいご支援と、国境を越えた「絆」に心より感謝申し上げます。



▲ドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパーク



Mine秋吉台ジオパークが ユネスコ世界ジオパーク UGGpになったことで、どう変わる？

part 11

◆ 交流を行う編 ◆

令和8年4月23日に、Mine秋吉台ジオパークがUGGpとして認定されたので、これからは、UGGpになったことでどんな変化が期待できるのか？について考えていきます。一つの大きな変化は、国際交流をさらに行うことが可能になることです。ジオパークの目的は、様々な地域がネットワークを活用してつながり、経験や知見を共有し、知恵を出し合って持続可能な社会の実現を目指すことです。交流活動はこの目的を達成するために欠かせないツールです。Mine秋吉台ジオパークが既に実施している国際交流活動の例を挙げると、美祢青嶺高校や美東小学校で行った、連携協定(MOU)を締結しているベトナムのドンヴァンカルスト台地UGGpとのオンライン交流があります。参加した生徒たちからは、「自分が全く知らない地域の文化や暮らしについて触れることができた」、「海外に興味を持つきっかけとなったし、私もいつか留学を経験してジオに関する活動に参加してみたい」、「他地域と交流することで見聞を広め、自身が住む地域についても一層理解を深めることができた」といった感想をいただきました。これからは、ユネスコ世界ジオパークのネットワークを活用し、世界中のジオパークとの交流に、より力を入れていく予定です。今年度は、マレーシアのランカウイUGGpと連携して行う国際交流事業「グローバルチャレンジ」が始まりました。ご報告をお楽しみに！

続く